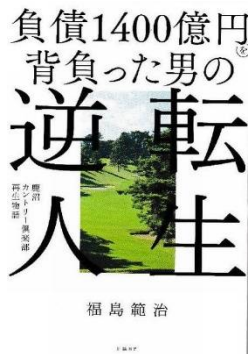


# 負債 1400 億円を背負った男の逆転人生

福島 範治 著

## ★ 出版記録



- ・著 者：福島 範治
- ・発 行 者：松井 健
- ・発 行：株式会社日経 BP
- ・発 売：株式会社日経 BP マーケティング  
〒105-8308 東京都港区虎ノ門 4-3-12
- ・編 集：北方 雅人
- ・初版発行：2025年2月17日 第1版第1刷発行
- ・定 価：定価 1870 円（10%税込）

## ★ 著者略歴

- ・1970年 東京都生まれ。
- ・1993年 青山学院大学経営学部卒業。
- ・1993年 第一勧業銀行（現みずほ銀行）入行。
- ・1998年 父親が社長を務める鹿沼カントリー倶楽部に入社。
- ・1999年 同社 代表取締役副社長 就任。
- ・2004年 同社 民事再生法の適用を申請。代表取締役を退任し、執行役員副社長へ就任。
- ・2008年 スポンサーを入れず自力再生を成し遂げ、代表取締役に就任。  
鹿沼グループ代表として栃木県内で3つのゴルフ場を運営する。

## ★ 目次

はじめに

### 第1章 決断

足利銀行からの電話  
父と母  
「普通」の家族  
処々全真  
家業を継ぐ決断  
銀行最終日

## 第2編 逆境

アウトサイダー  
傲慢経営  
「貴殿の行いは慟哭の極みなり」  
隠れ借入金  
代表取締役副社長  
謝罪という「初仕事」  
「おまえが自分で直せ！」  
潰れたほうがいい会社  
役員の内裏と初裁判  
告発文  
ゴルフ会員権のジレンマ  
女性営業マンの逆襲  
「あーやまれ、あーやまれ！」  
父が抱えた経営の「闇」  
自宅の売却要請

## 第3章 民事再生

メインバンクの一時国有化  
ドリームチーム、現る  
唯一、ついていい嘘  
経営者としての「死」  
Xデー  
「来るべき時が来た」  
債権者集会  
再生する意義  
再生計画案  
監督委員の「結論」  
別除権交渉  
「副社長にはご退任いただきたい」  
執念の勝利

## 第4章 再始動と撤退戦

雇われ副社長  
「苦勞しなければ経営者になれない」  
3人の戦友たち  
再生終結決定  
経営者の孤独  
経営理念と「12の約束」  
ゴルフ場経営の要諦  
不動産業からサービス業へ  
東日本大震災

午前6時の怪文書  
父との別れ  
横領事件と2人の死  
崩壊したゴルフコース  
運命の出会い  
御殿場の危機  
「あの自主再建は奇跡だった」  
我が子を手放す決断  
最大の撤退戦  
2度目の再生申し立て  
経営譲渡とピンポンパンゲーム

## 第5章 未来へ

コロナショック  
原点に立ち返る  
再生から成長へ  
次のゴルフ場を創り出す

## 第6章 再生に必要なもの

組織力の再生について  
財務力の再生について  
事業力の再生について  
精神力について

あとがき

### ★ 本文引用



「 白井先生との出会いと別れ、加藤君との出会いと別れ、そして中島篤志さんとの出会いとわかれ。私は、3人の大切な人から多くのことを学び、今を生き、困難を乗り越える原動力を与えてもらった。白井先生には厳しさと優しさを併せ持つ人間性を、加藤君には諦めない勇気を、篤志さんにはゴルフの魅力を伝える信念を、それぞれ教えてもらった。それは直接的なメッセージでなくとも、彼らの様を通して私の心に強く響き、影響を与えられた。

．．．．．

誰しも親は選べない。そして、父が事業家だったことも、ゴルフ場を営し1400億円もの負債を抱えたことも、私にとっての宿命だった。

一方で、その後の逆転人生は運命だった。 」

— (あとがき) より抜粋 —

## ★ 本書に関して



鹿沼グループ社長の福島範治氏が本を出すらしい、この情報が入って来たのは2025年2月初旬だった。発売日当日の2月17日、神保町の書店で手に入れる事が出来たのだが、ついつい読みふける日々が続き、気が付けば巻末の327ページ目だった。

ゴルフ場の経営者が本を出す、一体どのような内容なのだろうか、これが発売前の素朴な思いだったが、読み終えての率直な感想はヒューマンドキュメンタリーそのものだと感じた。福島氏はご自身の出自を語り、そして何度も何度も会社再生過程で打ちのめされ



< 2025年3月1日鹿沼カントリー倶楽部にて >

るが、それでも又立ち上がって行く、その姿があからさまに書かれている。

読む者にとってはハラハラドキドキの連続だ。「えっ！またそんな事が起きたの！」とまるで戦争映画でも観ている様、否、戦場へ放り込まれた錯覚に陥る。

メインバンクである足利銀行からの要請も有り、父親の会社へ入社した訳だが、会社継承の道のは一筋縄では無かった。会社再建、その過程に位置付けられた自社の法的整理、言うは易く達成に至る過程は、何度も何度も谷底へ突き落させられる思いだった。幾度となく立ち上がったのは、様々な人々との出会いが大きかった。

再建再生の思いで突き進んで来た福島氏だが、思えば現社員の八割は、自社の過去を知らない。今後は新鹿沼グループを創造して行かなければならない、これが経営者に与えられた使命だと感じている。社員には過去を知ってもらい、明日への力へかえて行って欲しいと考えている。その意味でも一区切りつきたい、その福島氏の思いが本書出版へと突き動かした。

氏には常日頃、物事をメモしまとめる習性が有り、それが本書出版の下地になっている。どの様にして氏が泥沼から這い上がったのか、時には涙無くして読めない部分も有るが、ゴルフ関係者であれば是非一読して頂きたい一冊である。

バブル経済崩壊以降、約1000コースが何らかしらの形で法的整理を経て来ているが、今なお苦しめられている経営者も多い事と思われる。共感する点が、少なからず多いのではないだろうか。

2025年3月6日

文\_\_大野良夫 © Yoshio Oono  
日本ゴルフジャーナリスト協会 会員